

文芸

俳句

大雨を案しながらも大根時く
池田 逸子

成功の五輪の招致竹の春
伊藤 敬子

新米や弟の労に感謝せし
今関満喜子

アルコールゼロでも酔える月見酒
魚地 照子

遠く来て花野に風を聴く日かな
江森 悦子

身に入むや医師の一言お諭です
川島 通則

おみくじを引いて水澄む弁財天
向後 寛

秋深し老老介護の「ありがとう」
越川せつ子

青バツタ葉脈残して次の葉へ
小松 藤男

アナログの勇姿SL秋簾
佐瀬 輝夫

自づから散り初む紫蘇の花であり
椎名万里子

急がねば急がねばとて虫の啼く
鈴木とし子

手繰り寄す夕日の色や烏瓜
鈴木 利子

秋空にわが身ゆだねて成田発つ
玉虫 栗扇

衣被卓の真ん中湯気立てり
土屋美枝子

馬車道はこのあたりから花芒
土屋 義昭

松虫や梢一声ちんちろりん
戸村 静華

満月や墨絵の如し己が影
内藤 くに

花木榿乏しき花となりけり
早川 勇

霧少し脱ぎし富嶽の旅情かな
藤田 雅夫

短歌

里芋の今年は作柄ためし掘り
越川 義則

酷暑に耐えて子沢山なり
伊藤 定男

永らいて呆けず健康恵まれし
天与の命生きざる喜ひ

過ぎ去れば苦しきことも思ひ出に
人に語りてともに楽しみ

.....
高梨 キヨ

夜を降りし雨にぬれたる葡萄棚
数多の滴を房より落とす

掌でまあるくなあれと語りつつ
月命日の団子作りぬ

.....
八角 三枝

パトカーが後ろにつきて常よりも
ハンドル握る手硬くなりたり

昨夜よりは見上ぐる人の少なきか
十六夜の月親しくなりぬ

.....
田崎 尚美

陽に映える真白な花は夕暮れに
酔うがごとくに染まりていたり

.....
加瀬 弘子※

新米の香り漂う食卓に
亡き義父母の稲刈思う

.....
浅野 榮子※

老犬の体ふりつつぼてぼてと
先に歩むを見守りゆきぬ

.....
椎名美枝子※

金木犀の花咲きをれば何時の間か
吸はるる如く寄りてゆきたり

.....
押尾 輝子

一寸の先も見えなき豪雨なり
友の車のライトがけふる

.....
青木 秀子

合歡の葉が風に揺れる夕暮を
早しと思ふ散歩の道に

.....
平山 芳子

子の妻の贈りくれたるストールを
かけて鏡の前に立ちをり

.....
芹川 初子

勇ましいはにわ

こうほう 博物館 68

昭和四十九年に、発掘調査された小川台古墳群五号墳からは、人物や馬・鹿などの形象埴輪が多数出土した。その中で特徴的なのが、写真で示した武人像埴輪である。普通、人物埴輪は、円筒状の台の上に、直立するようになっているものが多い。それに対してこの武人像埴輪は、まるで大地に踏ん張るように、両足を広げて立ち、台には載っていない。しかし、大きな足に対して手は小さく、両手を水平に掲げて、何かを抱くように前に広げている。このような造形の埴輪は他に

は類例がなく、人物埴輪としては非常に面白い表現をしたものである。復元した埴輪には、同じような造形の埴輪で、武人ではない男子像埴輪があり、また復元できなかった武人像埴輪も他に2〜3例ある。女子像は2例あるが、円筒に載っている。そうすると男子像だけが、大地を踏ん張る姿で、強さを表現した造形にしたのであろうか。

町民ギャラリーで24日まで展示しているので、ぜひご覧ください。

(社会文化課 道澤 明)



▲小川台古墳群五号墳から出土した武人像埴輪